

第26回社会福祉実践家のための臨床理論・技術研修会

2012年10月27日（土）開催しました！

基調講演に、80名の社会福祉実践家と本学生が参加し学びました。

（会場 明治学院大学白金キャンパス 2号館2201教室）

〈基調講演〉 10:00～12:00

「ソーシャルワークにおける
プランニングの意義と実際」

講師：松端克文

（桃山学院大学教授）

基調講演要旨

ソーシャルワーク実践においては、プランニングが重要な位置を占めます。しかし、個別支援領域と地域診断や市町村での計画づくりなどのメゾ・マクロ領域とでは、共通性もあるものの、留意すべきポイントや具体的な方法論も異なってきます。個別支援でも対象が変われば、法制度の違いもあり、単純に同じであるとはいえません。ソーシャルワーク実践におけるプランニングの意義について、さらに様々な領域におけるプランニングの実際について講演いただきました。



<ワークショップ> 13:00~16:30

ワークショップA 「本人中心の個別支援のプランニング手法を学ぶ」

講師：桃山学院大学 松端克文 コーディネーター：明治学院大学 久保美紀



松端先生の下、16名の社会福祉実践家によるワークショップが行われました。当日の様子です。



◆基調講演・ワークショップAの講師 松端克文（まつのはなかつふみ）先生のプロフィール

桃山学院大学社会学部教授

研究テーマや実践とのかかわり：

地域福祉の推進方法として、個別支援から地域支援（組織化～計画化）までを包括的に捉え、推進していきけるような仕組みづくりについて研究中です。

奈良県地域福祉権利擁護事業契約締結審査会委員長、大阪府第4次障がい者計画検討委員会委員長、東大阪市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会会長、岸和田市障害者施策推進協議会会長、伊丹市福祉対策審議会委員、大阪市障害者施策推進協議会委員、和歌山県田辺市地域福祉計画策定委員会副委員長



<ワークショップ> 13:00~16:30

ワークショップB 「地域ニーズのアセスメントとプランニング手法を学ぶ」

講師：山梨学院大学 竹端寛 コーディネーター：明治学院大学 茨木尚子



竹端先生の下、8名の社会福祉実践家によるワークショップが行われました。当日の様子です。



◆ワークショップBの講師 竹端寛（たけばたひろし）先生のプロフィール

山梨学院大学法学部准教授

研究テーマや実践とのかかわり：

大学院時代の精神科病院でのフィールドワークを皮切りに、入所施設から地域移行された方々の聞き取り調査など、脱施設・脱精神科病院と地域生活支援に関する研究を進めています。山梨に移住後は、障害者・高齢者の地域福祉に関するアドバイザーとして、地域自立支援協議会の実体化支援や、地域包括ケアシステムの構築に向けた市町村支援にも従事。三重県では5年前から障害福祉分野に関わる「市町職員エンパワメント研修」を手がけ、地域ニーズのアセスメントやプランニングに関する現任者教育にも携わっています。また、内閣府障がい者制度改革推進会議の総合福祉部会委員として、国レベルの政策形成過程の変容に向けた議論にも関わりました。



<ワークショップ> 13:00~16:30

ワークショップC 「高齢者やその家族の地域支援のプランニング手法を学ぶ」

講師：富士宮市福祉総合相談課参事 地域包括支援センター長 土屋幸己
コーディネーター：明治学院大学 大瀧敦子



土屋先生の下、12名の社会福祉実践家によるワークショップが行われました。当日の様子です。



◆ワークショップCの講師

土屋幸己（つちやゆきみ）先生のプロフィール

富士宮市福祉総合相談課参事 地域包括支援センター長
研究テーマや実践とのかかわり：

障害福祉（知的障がい）分野で長く仕事をしていました。入所施設でいかに利用者の人権を擁護するかというテーマで長年実践をしてきました。現在は、地域包括支援センターで総合相談や地域包括ケアシステム構築への取り組みをしています。

一般社団法人静岡県社会福祉士会副会長、社団法人日本社会福祉士会地域包括支援センター支部支援委員会委員、成年後見支援センター「ばあとなあ静岡」委員、厚生労働省安心生活創造事業推進委員会会員、厚生労働省「生活困窮自立促進プロセス構築モデル事業」統括委員会委員

